

令和元年度阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会
議事概要

1. 日 時：令和2年2月13日（木）13:30～15:30
2. 場 所：あかん湖鶴雅ウイングス 大広間「ポロサケ」
3. 出席者：出席者名簿のとおり
4. 議 事

■開会

- 環境省釧路自然環境事務所 田邊所長より挨拶
- 事務局から大空町が急遽欠席となったことを報告

■議題

(1) 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会設置要綱の改正について

- 事務局から資料1に基づき説明
 - ・本文変更なし、構成員の組織改編による職名変更
(北海道経済部観光局【別表1】・経済産業省北海道経済産業局【別表2-1、2-2】および津別町産業振興課【別表2-2】については主幹から課長へ修正になる旨を事務局が説明)
- 出席者からの質問等はなし
- 設置要綱を本日付で改定案のとおり改正することを了承

(2) 報告事項

1. 国立公園満喫プロジェクトに関する令和2(2020)年度予算について(環境省)

- 事務局(環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹淵所長)から資料2-1に基づき説明
 - ・令和2年度予算案:178億円
滞在環境の上質化、魅力あるコンテンツ作り、基盤的な利用施設の整備/長寿命化、受入環境の整備、海外への情報発信、新宿御苑や京都御苑の魅力向上のうち、以下については国際観光旅客税を財源とした事業予算68億円(全体予算の内数)
 - 利用拠点の滞在環境の上質化→廃屋撤去や阿寒湖の街並み改善
 - 魅力あるコンテンツ作り→ナイトタイムコンテンツの造成を新規追加
 - 国立公園の魅力発信→デジタルサイネージ等による多言語での情報発信
 - 国民公園の魅力向上→新宿御苑や京都御苑等の環境省所管施設における日本の自然の紹介
- 出席者からの質問等はなし。

2. 阿寒摩周国立公園におけるトレイルネットワークの形成について（環境省）

○環境省阿寒摩周国立公園管理事務所 笹渕所長から資料 2-2-1～3 に基づき報告

- ・ 2019 年 1 月改定ステップアッププログラムを踏まえ、歩いて旅を楽しむためのトレイル整備を図る。（資料 2-2-1）
- ・ トレイル整備・維持管理ガイドライン（資料 2-2-2）で、統一感のある整備を図るための維持管理の考え方、看板道標デザイン・設置基準などを整理。大雪山国立公園のグレードを参照した阿寒摩周国立公園の歩道グレード設定や、国立公園を安心して歩けるイメージ作りのため、国立公園トレイルプレートを作成することとした。

なお、地域の阿寒自然散策路サインマニュアルと、国立公園の統一マーク、国立公園フォントをどのように融合させていくかを今後整理する予定。

- ・ ロングトレイル構想（資料 2-2-3）を取りまとめた。今後は国立公園を端から端まで歩ける道をどのように繋げるかを精査し、国立公園外の道東 3 空港と繋ぐロングトレイル構築を目指す。既存のサイクリングロードやカヌーなど動力を使用しない移動しながら楽しめるアクティビティでこのエリアをダイナミックに繋ぐよう関係者の方々と話し合いを進めたい。

○出席者からの質問等はなし。

3. アドベンチャートラベルの推進について（北海道）

○北海道経済部観光局受入体制整備グループ 長山主幹から資料 2-3 に基づき報告

- ・ アドベンチャートラベルの市場規模は 72 兆円（アジアを除く）で年々増加
- ・ アドベンチャートラベラーは消費額が多く北海道観光産業に寄与するものと考え
- ・ インバウンドは道央圏に集中しているため、フィールドがそろっている道東圏へ周遊させたい。
- ・ ATWS（Adventure Travel World Summit）の誘致活動に取り組んでおり、北海道で開催されればアジア初となる。2021 年北海道開催がほぼ内定しており、1 月 24 日に記者発表済み。契約の最終段階に入ったという通知が ATTA からなされたが、正式な発表はこれからとなるため、情報の取り扱いには注意いただきたい。
- ・ アドベンチャートラベラーは知的好奇心が高く、ガイドの存在が重要。運輸局と協力しながらガイドスキル習得のプログラム策定を進めており、来年度以降、既存の北海道アウトドア資格制度をベースとした AT ガイド資格を構築できないか検討予定。

○出席者からの質問等はなし。

4. 観光立国ショーケースの取組状況について（釧路市）

○釧路市産業振興部観光振興担当部 吉田部長から資料 2-4 に基づき報告

- ・ 観光立国ショーケースはゴールデンルートに集中する観光客を地方に呼び込むもので、長崎・金沢とともに釧路が設定され取り組んでいる。
- ・ 阿寒および釧路 DMO とともに様々な取組を行っている。
 - 阿寒湖アイスシアター「イコロ」においてデジタルアートを活用したアイス古式舞踊プログラム「ロストカムイ」を 2019 年 3 月より開始。
 - 2019 年 7 月より阿寒湖畔で「カムイルミナ」がスタートし、これまでに 3 万 4000 人が利用。
 - 釧路空港では 2018 年 8 月にピーチアビエーション社の釧路～大阪便が就航（ひがし北海道初の LCC 就航）年間搭乗者は 1 万人を突破し、インバウンド誘客促進につなげるべくプロモーション実施中。
 - 2016 年から ATWS に毎年参加し、ATTA の役員招聘や FAM トリップを実施。阿寒湖の認知度向上に努めている。
 - 2018 年 9 月より地方自治体初の 8K 映像観光動画を制作しユーチューブにて配信。アメリカ・フランス・台湾・香港・韓国・マレーシアなどで 870 万回再生されている。
- ・ 今後の課題は、観光客の滞在時間の延長、AT 商品の販売、国別嗜好分析に基づく着地型旅行商品の提供、キャッシュレス決済導入促進など。

○出席者からの質問等はなし。

5. 「交通シームレス化調査事業」及び「持続可能な観光推進事業」について（北海道運輸局）

○北海道運輸局釧路運輸支局 西崎首席運輸企画専門官から資料 2-5 に基づき報告

- ・ 交通シームレス化調査事業について
 - インバウンド客増加に対応する公共交通の受入環境整備強化のため阿寒湖エリアで本事業を実施。
 - 3 段階で事業を展開する予定。本年度は阿寒湖エリア（JR 釧路駅、釧路空港からの 2 次交通ネットワーク整備）によるモデル展開、令和 2 年度以降に、モデル拠点の拡大、拠点間連携を含めたシームレス化と進めたい。
 - 本年度は現地検討会を実施し、シームレスなネットワーク構築、交通結節点の環境整備、次世代輸送システムの導入、キャッシュレス化を検討。
- ・ 持続可能な観光推進事業について
 - GSTC (Global Sustainable Tourism Council) の国際基準を学ぶ GSTC トレーニングプログラムを実施（阿寒湖地区・ニセコ地区）
 - ペットボトルゴミ削減に向けた実証事業を実施。マイボトル利用推進のため 7 箇所の給水スポットを設置し、マイボトルの販売を推進

○出席者からの質問等はなし。

6. 東京 2020 オリンピック 競技大会札幌開催に合わせた自然公園の利用促進に向けた取組について（北海道）

○北海道環境生活部環境局生物多様性担当局 小林局長から資料 2-6 に基づき報告

- ・ 東京オリンピック札幌大会開催をチャンスとして、インバウンド客の自然への関心の高さに着目し、自然公園を網羅的に紹介できるような展開を行う。予算事業ではないため、弾力的な運用展開を検討している。
- ・ 道央圏のほか、阿寒～釧路湿原～厚岸などをモデル周遊ルートとして紹介予定。
- ・ インターネットのほか各空港に協力いただいて情報発信していきたい。また、関係市町村の方々にご協力いただくこともあるのでご理解いただきたい。

○出席者からの質問等はなし。

（3）協議事項

1. 「阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト 2019 年までの取組状況」の取りまとめ

○事務局から資料 3-1 および参考資料 1 に基づき説明

- ・ 取組み状況については年度末に開催される国立公園満喫プロジェクト有識者会議において、報告をさせていただく。
 - AT の推進：関係者が一丸となって誘致に取り組んできた
 - 国立公園の新たな活用：未利用の箇所を保全しながら活用
 - 民間投資の促進：環境省施設への民間カフェ導入、廃屋撤去後の跡地利用、公設キャンプ場の民間活用など
 - 快適な公共空間の整備：国立公園内の公共施設の再整備、多言語対応等を推進
- ・ 2021 年以降の取組み方針としては、AT をターゲットと定め、消費額の向上、滞在日数の延長につなげていく。また、持続可能な観光地として国立公園のブランド化を図り、ステップアッププログラムの「加速化する主な取組み」の発展的展開を図る。

○出席者からの質問等はなし。

2. 阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト令和 3（2021）年度以降の取組継続について

○北海道環境生活部環境局生物多様性担当局 小林局長から資料 3-2 に基づき説明

- ・ 2020 年度を目標として取組みは着実に進んでいるが、課題も出てきているため取組みを令和 3 年以降も継続していくべきと考えている。阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会構成員から地域の総意として満喫プロジェクトの取組み継続を提案したい。

○提案に対する意見等の概要

【阿寒摩周国立公園広域観光協議会会長 徳永弟子屈町長】

- ・ 自治体としても広域観光協議会としても各市町村と連携して取組みを進めている

が、課題が多くあり、道半ばである。引き続き国立公園満喫プロジェクトの継続をお願いしたい。また、各市町村に満喫プロジェクトの効果を浸透させていくためにも国の支援を賜りたい。

【北海道環境生活部環境局生物多様性担当局 小林局長】

- ・ 阿寒摩周国立公園において、満喫プロジェクト期間終了以降にも取り組みが継続できるように国に提案したい。

【環境省自然環境局国立公園課 熊倉課長】

- ・ 満喫プロジェクト始動後5年目に入り、一定の成果も見られてきた。しかし民間企業の投資促進、受入環境の整備、国内外へのプロモーションはまだ途上にあり、これからも継続的かつ長期的な視点で取り組んでいきたい。
- ・ 協議会から力強い要望をいただいたことは大変な応援になる。予算要望など今後も注力していきたい。
- ・ これから有識者会議において各国立公園の成果発表を行い、これを受けて2021年以降の取り組みをどうするか検討が始まっていく。1,000万人目標において目標達成が厳しい中、数値設定をどうするか、滞在日数や消費額を含めた質の向上に関する指標をどう考えていくのが論点になる。
- ・ 満喫プロジェクト推進のための枠組みとして、先行的集中的に取り組んできた阿寒摩周国立公園など8公園で取り組むべきことの整理も考えているが、他公園と比べ、阿寒摩周国立公園はモデル的な取り組みを行っている地域と捉えており、どう伸ばしていき、ほかの公園に波及させていくかもテーマになっていく。
- ・ 2021年以降に追加すべき取り組み等も検討し、ATの推進、交通シームレス化、道東3公園などの広域的プログラムの策定、道東全体のプロモーションの動きも踏まえて議論し、中間とりまとめを行って2021年度の予算要求につなげていきたい。

【満喫プロジェクト有識者会議 涌井座長】

- ・ 現場視察および協議会に参加し、廃屋撤去、トレイルネットワーク整備、景観整備、トイレ整備などのハード面の向上に取り組んでいることを確認した。
- ・ 協議会構成員の皆さんからの令和3年度以降の取り組み継続提案を受け止め、3月4日に開催される有識者会議に向けて、座長として心構えをしたい。
- ・ ATWSの誘致成功に向けて進んでいることは非常に良い印象である。私は観光訪問客数だけでなく消費単価の向上こそ地域経済に寄与すると考えており、質の向上に取り組む本件については非常にうれしく思っている。
- ・ SDGsだけでなく地域においてGSTC研修やプラスチックゴミに関する取り組みも行っており、モデルになると感じた。
- ・ 本日報告があった中で一番将来的に重要なものと感じたのは交通のシームレス化で

ある。MaaSの議論は、もたもたしていると世界から日本が立ち後れてしまう。日本では先に確立した地域が成功事例になっていく。それぞれの交通サービスのカテゴリーで適切な競争と統合が必要であり、統合という作業にどれだけ力を入れられるかが重要だと考える。

- ・ 国立公園の経済効果はトリクルダウン効果で風呂敷の真ん中をあげると裾が一緒に上がっていくように、真ん中を底上げして周辺に経済効果が広がっていくようにしていかなければならない。真ん中の国立公園に地域が無関心であっては経済効果が生まれないとこれまで申し上げてきたが、MaaSは周辺地域がどれだけ支えられるのかが大きな課題であり、ネットワーク形成、サービスの提供など、スピード感を持って取り組み、合わせてキャッシュレス化の推進を考えなければならない。
- ・ 次世代モビリティは極めて速いスピードで到来する可能性がある。阿寒摩周国立公園は日本の中のモデルであり、社会実験を行って新たな潮流を発信して国内の競争における優位性を極めていただきたい。
- ・ 東京オリンピックマラソン競技の札幌市開催については、ロンドンオリンピック開催時にブレア首相がロンドン以外の空港にLCC便を発着させ、地方の経済効果を生んだことと同様で、結果として好機と捉えて取り組みを行うことが重要である。また下蒲刈島の事例（江戸時代の朝鮮通信使へのおもてなし）のように市場側の情報をいかにして集め、サービスにつなげるかは国立公園の利用に際して非常に参考となる。この機会を逃さず、阿寒摩周国立公園は国立公園の先進地域になっていただきたい。

（４） その他

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト地域協議会令和元年度開催状況および今後の予定

○事務局から資料４に基づき説明

- ・ 令和２年度の予定について、１０月頃に阿寒地域・摩周地域合同部会を開催し、年度末の令和３年１～３月に地域協議会を開催する予定であり、地域の皆さまと今後日程を調整させていただく。

○出席者からの質問等はなし。

■閉会

○北海道環境生活部環境局生物多様性担当 小林局長より挨拶

以上